年頭所感

一般社団法人日本マグネシウム協会
会長　井上　正士

新年あけましておめでとうございます。
令和８年初の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

令和７年は、アメリカで第二次トランプ政権が成立したことに始まり、その後の関税政策や、引き続く不安定な世界情勢、円安、物価高、そして地球環境の変化にも翻弄される一年となりました。

このような状況下におきまして、我が国には高市内閣が発足いたしました。経済成長への対策として掲げられた 17 の戦略分野の一つには、我々金属材料の業界が大きく関係する「マテリアル（重要鉱物・部素材）」が盛り込まれております。マテリアルに関わる我々が、この戦略分野に関わる一員であることを強く意識しつつ、高市内閣により、我が国が成長、発展へと向かう政策が推し進められていくことを期待しております。

我が国のマグネシウム業界ですが、需要動向は横ばいのまだまだ厳しい状況が続いております。ものづくり業界全般が同様であると思いますが、マグネシウム業界においても不安定な世界情勢、円安、物価高に大きな影響を受け、既存の用途が低調であり、新規のアプリケーションも生まれ難い状況であると言えます。

一方で、世界一のマグネシウム生産国である中国では、マグネシウムをアルミニウムに次ぐ汎用素材と位置づけ、生産だけでなく需要にも注力しており、今注目のギガキャストをマグネシウムにも採用し、電気自動車などの大型部品の製造に着手し、マグネシウム二次電池や水素キャリアーとしての開発も積極的に進めております。この需要増加を支えるべく、原料の生産量も５年後には現状の３倍ほどまで成長するという予測も発表されております。

マグネシウムは、最軽量な金属材料として自動車部品や電子機器などに使用されていますが、アルミニウム、鉄鋼、チタン、化学品などの製品を製造するために必要な添加材、還元材としての使用量も多く、重要度が非常に高い金属材料であると言えますが、原料の供給は主にその中国に依存しております。中国とは、昨年に香港におい

て日中韓のマグネシウム協会による交流会を実施するなど、協会同士の関係をはじめ、マグネシウム業界においては良好な関係が継続しており、このような関係が、マグネシウム材料の安定供給の継続にも繋がっております。

また、マグネシウムは前述しましたとおり、政府の掲げる戦略分野の「マテリアル」の対象にもなり得る金属材料であると考えております。世界情勢の不安定さもあることから、政府からのご助力も得ながら、多岐にわたる分野を支えるマグネシウムの安定供給の確保を図っていきたいと考えております。

我が国のマグネシウム需要の成長に向けましては、昨今の製造業おいて重要となっているリサイクルの確立や、CO_2 排出量削減などの環境対策は引き続き課題であり、当会としても各種の委員会活動などにより対応策の検討を続けて参りますが、それらの課題を解決するためには、需要量を増加させていくことも重要であると考えおります。

安全安心してマグネシウム製品を製造し、使用していただくために開発されている、難燃性マグネシウム合金の普及促進は、需要増加への対策の一つとなります。当会では、自動車向けのマグネシウム合金部品の適用拡大を目的とし、難燃性マグネシウム合金の一つである「溶湯難燃マグネシウム合金」を開発したマグネシウム適用拡大委員会の活動を 6 年振りに再開しました。溶解工程でも燃え難いマグネシウム合金の普及促進を図るため、他の学協会の講演大会やセミナーでの発表など、積極的な PR 活動を行って参ります。

会員企業や大学、研究機関でも、難燃性・不燃性マグネシウム合金をはじめとする高機能なマグネシウム合金が開発されており、アプリケーションの開発も進められております。これから登場するマグネシウムによる新たなアプリケーションに期待してください。

本年は馬年です。ターフを軽やかに駆け抜けるサラブレッドのごとく、マグネシウムに関わる皆様が、安全のうちに大きな成長、発展を遂げ、マグネシウムのごとく軽やかに

一年を駆け抜けられることを祈念したしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年も、皆様の倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上